



2021.9.10
第16号
News (通算 163号)

発行: Non-Profit Organization for Research of Region and Environment in Fukui

福井大学工学部建築・都市環境工学科・地域・交通計画研究室内

REF 総務担当

〒910-8507 福井市文京 3-9-1 Tel&Fax:0776-27-8763

http://www.nporef.com/

第八期講演会・第七期活動報告会・令和二年度通常総会

令和三年七月十日(土)にREF第八期活動報告会・令和三年度通常総会が開催された。近年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、中間報告に続きオンラインにて開催することとなった。昨年度の報告会・総会と違い、完全オンラインとなったが、総勢二十一名の参加があった。

当日は、加藤理事長のあいさつの後、川本理事の進行のもと研究分科会の活動報告会が行われた。新型コロナウイルスの影響で、今期の活動を休止した分科会もあったが、交通・地象・道路交通安全の三分科会による発表・講評があり、最後に小嶋直人氏より、総評を頂戴した。

活動報告会に続き、令和三年度通常総会が行われ、議長として橋本拓己氏が選出された。また、議事署名人として小林孝彰氏、浅野周平氏の二名が選出され議事に移ることとなった。議題としては、令和二年度の活動報告・活動決算に関する件、令和三年度の事業計画・活動予算に関する件、また事務局(幹事会)の組織に関する件について諮られ、原案の通り議決されることとなった。

昨年の総会とは違い、完全オンラインにて決行されたが、大きな問題もなく執り行われた。また、オンラインを活用することで、県外の会員も容易に参加することができたことから、新型コロナウイルス終息後も、会場参加が困難な会員が参加できる手段として活用していく価値があるといえる。

第九期役員(敬称略)

(任期 令和二年八月一日〜令和四年七月三十一日)

理事	理事長・研究分科会	加藤 哲男	名古屋産業大学名誉教授
	副理事長・現地調査	宮本 好昭	デルタコンサルタント
	財務・談話会	酒井 俊雄	県砂防防災課
	総務・広報	川本 義海	福井大学
	監事	竹内 成和	
幹事	現地調査		
	談話会・講演会		
	広報		
財務			
総務			
研究分科会部門幹事			
(交通)	浅野 周平	福井大学	
(地象)	小林 孝彰	県港湾空港課	
(水)	齊藤 重人	福井県下水道公社	
(県境道路)	橋本 拓己	東京コンサルタンツ	
(道路交通安全)	嶋田 喜昭	大同大学	

役員(任期は二年間)

(令和四年七月三十一日まで)

第八期(通算第四一期)決算

(令和二年六月一日〜令和三年五月三十一日)

科目	金額	対前年度増減
1 経常収益		
1 受取会費	812,000	
正会員受取会費	720,000	
賛助会員受取会費	92,000	
2 受取寄附金	0	
受取寄附金	0	
3 受取助成金等	0	
受取助成金	0	
受取民間助成金	0	
4 事業収益	0	
研修事業収益	0	
その他収益	0	
受取利息	19	
雑収益	0	
経常収益 計	812,019	
II 経常費用		
1 事業費	484,661	
(1) 人件費	0	
人件費 計	0	
(2) その他経費	484,661	
会議費	0	
会議使用料	19,016	
旅費交通費	14,169	
印刷製本費	346,590	
公費	59,313	
通信運搬費	32,366	
消耗品費	21,212	
その他経費 計	484,661	
2 管理費	0	
(1) 人件費	0	
人件費 計	0	
(2) その他経費	0	
会議費	0	
会議使用料	200	
旅費交通費	400	
印刷製本費	0	
通信運搬費	3,927	
消耗品費	20,000	
雑費	24,827	
その他経費 計	24,827	
管理費 計	24,827	
経常費用 計	509,488	
当期経常増減額	302,531	
III 経常外収益	0	
1 固定資産売却益	0	
経常外収益 計	0	
IV 経常外費用		
1 固定資産売却損	0	
経常外費用 計	0	
当期正味財産増減額	302,531	
前期正味財産額	2,412,111	
当期繰越正味財産額	2,714,642	

第九期(通算第四二期)予算

(令和三年六月一日〜令和四年五月三十一日)

科目	金額	対前年度増減
1 経常収益		
1 受取会費	780,000	
正会員受取会費	65,000	
賛助会員受取会費	715,000	
2 受取寄附金	0	
受取寄附金	0	
3 受取助成金等	0	
受取助成金	0	
受取民間助成金	0	
4 事業収益	60,000	
研修事業収益	60,000	
その他収益	0	
受取利息	0	
雑収益	0	
経常収益 計	840,000	
II 経常費用		
1 事業費	1,280,000	
(1) 人件費	0	
人件費 計	0	
(2) その他経費	1,280,000	
会議費	24,000	
会議使用料	12,000	
旅費交通費	16,000	
印刷製本費	236,000	
公費	3,200	
通信運搬費	36,000	
消耗品費	20,000	
その他経費 計	1,230,000	
事業費 計	1,230,000	
2 管理費	0	
(1) 人件費	0	
人件費 計	0	
(2) その他経費	0	
会議費	0	
会議使用料	0	
旅費交通費	0	
印刷製本費	0	
通信運搬費	0	
消耗品費	0	
雑費	0	
その他経費 計	0	
管理費 計	0	
経常費用 計	1,230,000	
当期経常増減額	-390,000	
III 経常外収益	0	
1 固定資産売却益	0	
経常外収益 計	0	
IV 経常外費用		
1 固定資産売却損	0	
経常外費用 計	0	
当期正味財産増減額	-390,000	
前期正味財産額	2,324,642	
当期繰越正味財産額	1,934,642	

【分科会報告会】

【交通分科会】

発表者：吉村 朋矩
講評者：酒井 俊雄
「未来につながる移動と暮らしに関する調査」

今期の交通分科会では、鉄道やバスといった公共交通に加えて、シェアサイクルや電動キックボードといった次世代モビリティサービスを対象として、これらのサービスが日常生活の新たな交通手段となり得るのか、観光での回遊性向上や地域の魅力再発見に寄与するのかを検討するため基礎的知見を得ることを目的として、現地調査・文献調査を行う。

電動キックボードの利用に関する調査として、国土交通省福井河川国道事務所の協力を得て、国交省の管理道路にて調査を実施した。被験者は十代から二十代の二十八名とした。まず、電動キックボードの認知度は、知っていたと回答したのは約四割弱であった。また、利用したい距離として、まず、立地適正化計画における公共交通の利用しやすい区域の考え方から、三〇〇メートルをバス停の徒歩圏、八〇〇メートルを鉄道駅の徒歩圏と設定した。調査により、バス停徒歩圏の三〇〇メートル未満の割合は二割程度、鉄道駅の徒歩圏八〇〇メートル未満までとすると八割が利用意向を示した。これより、電動キックボードの利用は、バス停並びに鉄道駅の徒歩圏をカバーするとともに、バス停や鉄道圏域を拡大する可能性があると考えられる。

その他、利用したい場面では、近場での利用や旅行先での移動で利用するなど、気分転換としての利用に関する回答が最も多く、単なる移動手段でなく、楽しみながら移動する交通としての可能性を秘めている。

今後は、都市内の交通施設を含めた都市施設と次世代交通を含めた交通機関を組み合わせた交通体系のデザインの検討をするべくさらに調査を進めていきたい。

また、福井県高浜町で実証実験が始まったグリーンズロ―モビリティの現地調査も来期で行うこととしたい。

【地象分科会】

発表者：梅田 祐一
講評者：加藤 哲男
「福井の地名から学ぶ防災・減災について」
～小浜市編～

大雨などの防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられ、その地形を読み解くのに地名は切り離せない。地名は過去にどのような地形であったか、どのような災害が起こりうるのかといった、災害リスクを把握するのに有用な要素である。

今期の地象分科会は、小浜市周辺を対象とし文献調査を中心に活動を行った。今後行う現地調査に先立ち、水害の多発している北川周辺の地形地質と地名について調査した。

小浜市は、福井県嶺南地域で最も特徴的な三遠三角地と呼ばれる地形区分に位置している。三遠三角地は三方断層と熊川断層に囲まれた地域であり、周りに対して著しく沈降しているのが特徴である。この沈降により三方五湖が形成されたほか、小浜市周辺では北川の北岸側で標高の低いエリアが存在する。このエリアについて地名を調査すると、水にまつわる可能性の名前が多数あり、古くから水害を受けていたことがうかがえる。(羽賀、栗田、加茂、新保、堤、高塚)

「小浜市史 絵図地図編」より古地図の調査を異なる年代三枚を用いて行った。まず、先述の北側北岸側の地名は一六七三年以前から存在していたことが分かった。

今期は新型コロナウイルスの影響で現地調査を行うことができなかったため、資料調査にとどまったが、来期も同テーマにて調査を進め、現地の地形状況や防災の歴史を調べ、防災・減災の在り方について整理していく。

【道路交通安全分科会】

発表者：嶋田 喜昭
講評者：川本 義海
「自動運転・Maas社会における短距離移動支援・サービスのあり方」

コロナ禍による三密回避の追求等も相まって、現在、短距離移動手段として世界的に「マイクロモビリティ（以下M_M）」が注目されている。今後のコロナ時代の中で重要な交通手段となっていくことを鑑み、特にM_Mの今後の活用・運用を検討すべく、地域や移動距離・速度等を踏まえたM_Mの体系等について、整理を行った。

M_Mの一つである電動キックボードは、一人用の立ち乗りモビリティであり、単距離、ラストマイルの普及において安全面の課題の克服が重要であり、先行するアメリカの安全性の現状について事故分析の事例等を中心に整理した。整理の結果、負傷者層として、若年層、男性が多い傾向であり、負傷箇所として頭部外傷（ヘルメット着用率の低さが反映）の割合が高くなっていた。

我が国においては、二〇二二年二月に電動キックボードの関連法を整備することが発表され、小型自動車の位置づけとなった。小型自動車であることから、最高速度は毎時十五キロに制限されるが、ヘルメット着用が義務化されないため、キックボードの利用による頭部外傷の患者が、多く発生することが予想される。

M_Mにおける「アシスト」の概念について、電動キックボードを含め、M_Mを改善していくためには、歩行者と馴染みが良い交通具の開発が必要であり、そして、ハンディを負った人々が健常者と共に歩けるようアシスト（若干の置換えを受けること）で「楽しく歩いていく」感覚を取り戻す）することが必要である。

今後は、さらに詳細にM_Mの体系をとらえ、短距離移動支援・サービスにおけるM_Mの活用方策、「特に自動運転・Maasとの連携について検討していく。



地象分科会の報告



交通分科会の報告



報告会・総会の様子



道路交通安全分科会の報告

☆入退会のおしらせ☆ (敬称略)

《退会》

- 正会員 杉原 忠弘
- 賛助会員 山田 将大 (学生会員)
- 樊 尚育 (学生会員)

《逝去》

- 正会員 堂本 博滋
 - 前田 光康
- 令和三年八月一日時点
- | | |
|------|------|
| 正会員 | 六十五名 |
| 賛助会員 | 三十五名 |
| 合計 | 百名 |

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 一、〇〇〇円

賛助会員 … 三、〇〇〇円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行

振替口座 七三〇・三・二〇三九六

福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒九一三三八五一

福井県坂井市三国町水居一七四五
福井県三国土木事務所

清水 健

TEL 〇七七六・八二・一一一八(内線四六二)

Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp